特集 まちなか再生に向けた官民連携の取り組みについて ～(仮称)館林駅東エリアプラットフォーム～

館林市　都市建設部　区画整理課

館林市には約550年前に城沼を天然の要塞として「館林城」が築かれ、館林駅の東側は城下町として栄え、武家屋敷や町屋が軒を連ねていました。

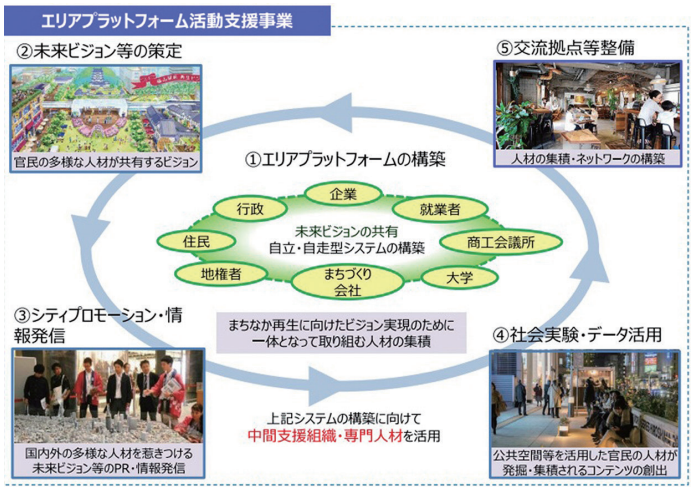
明治時代を迎えると鉄道の開通や近代産業の振興などにより製粉業や織物業が発展し、それとともに館林駅周辺もにぎわいを見せ、商業施設や文化施設等が立地し経済活動･市民活動の中心として市街地を形成してきました。

このような歴史を持つ市街地は、戦災による家屋の焼失を免れたため今でも歴史的な建造物や当時の区割りが残り、市の特色の一つであるとともに訪れた人々にも歴史を感じさせてくれています。

また、多くの公的不動産が立地しており、公共施設や公園等多様な機能を担っていますが、施設の老朽化や人口減少、都市の郊外化により低未利用となっているものも多く、まちのにぎわいが失われつつあるなど課題もあります。

そこで館林市では、官民の多様な方々とまちなかの再生に向けた目指すべき将来ビジョンやその実現に向けた取り組みを話し合う、「エリアプラットフォーム※1」の構築を目指しています。

※1 **エリアプラットフォーム**…行政を始めまちづくりの担い手であるまちづくり会社･団体、商店街、商工会議所、住民、事業者などが集まってまちの将来像を議論・描き、その実現に向けた取り組みについて協議・調整を行う場



(https://www.mlit.go.jp/toshi/system/#kanminsaisei)

■ これまでの官民連携まちづくりの取り組みについて

これまで、館林市ではリノベーションまちづくりや道路空間の柔軟な活用を目指した「ミチカツ社会実験」（道路空間へのキッチンカー出店）、市街地の公的不動産の利活用をつないだ「つなぐ・まちなかフェス」などに官民連携で取り組み、「家守※2会社」の誕生や民間事業者による遊休不動産へのシェアスペース、コワーキングスペースの開業など、まちなかのにぎわいにつながる事業を進めてきました。（※2家守…江戸時代、地主･家主に代わってその土地・家屋を管理した。近年はエリアマネジメントを行う「家守会社」も増えています。）

ほかにも、令和４年度には民間事業者や市民団体と行政でエリアプラットフォームの構築に向けた「情報連絡会」を開催しただけでなく、「館林市市民センター（館林旧市庁舎）」での民間提案制度を活用したトライアル・サウンディングを行うなど、多様な事業者・団体と連携しながら公的不動産の活用をスピード感を持って推進しているところです。

ミチカツ社会実験の様子

市民センター（旧市庁舎）

市民センター１階の活用

■ 現在の取り組みについて

準備会議の様子

館林駅東エリアには先ほど紹介した市民センターのほかにも歴史的な建造物や公的不動産が数多くあり、これらの有効活用は行政の課題であるとともに、その魅力を活かしたいという民間事業者の想いもあります。

そのため、令和６年度はエリアプラットフォームの構築とエリア内にある公的不動産や歴史的建造物の利活用に向けたワークショップなど、２つの取り組みを重点的に取り組んでいます。

まず、プラットフォームの構築ではこれまで３回の準備会議を開催し、構築の目的や他市の事例、行政・事業者が抱える課題の共有などを行い、対話をしながら準備を進めています。

次に、今年の７月に開催した「まち歩きワークショップ」では、高校生を含む約40名の参加者がまちなかの魅力や残したい風景、変えた方が良い場所などについて意見を出し合いました。

その中でも歴史的建造物が多く残るエリアでは、建物の利活用や周辺の街並みについて活発な意見交換がなされ、今後はまちなかの将来ビジョンの議論やワークショップで出されたアイデアを深堀りするため、具体的なビジョンの検討や利活用に向けてワークショップを実施していく予定です。

ワークショップの様子

■ 官民のコミュニケーションについて

現在取り組んでいるエリアプラットフォームは多様な人材がフラットな立場で集まり、行政を始めとしたそれぞれの立場で抱える課題の解決や将来ビジョンの実現に向けて取り組むことはもちろん、お互いの支援が柔軟かつスピーディに行える情報共有の場としても機能させていく必要があります。

プラットフォーム構築に向けた準備会議においてメンバーの事業者から「Slack」というアプリケーションが情報共有ツールとして提案され、行政職員と事業者、団体がつながる仕組みを導入し円滑なコミュニケーションが図れるようになりました。

その結果、会議などの正式な通知は電子メールなどを活用しますが、その前段の日程や概要の情報やメンバーそれぞれが訪れたイベントや他のまちの事例共有などが格段にスムーズになったと感じています。

また、「飲みニケーション」というスレッドも立ち上がり、オン・オフ問わずメンバーがつながる場が出来ました。

■ 最後に

旧二業見番組合事務所

エリアプラットフォームの取り組みはそれぞれのまちが抱える課題や魅力、ステークホルダーが異なることから、他市の事例を参考にしても正解とは限りません。そのため、行政職員も可能な限りまちへ飛び出し、変化していくまちの様子や事業者、市民団体等の取り組みや悩みなどの情報を敏感にキャッチする必要があります。試行錯誤しながらにはなりますが官民がフラットな立場で議論し、まちなかの再生に取り組んでいきたいと考えています。

まずは市民センターを始めとした歴史的建造物の魅力に触れていただけたらと思いますので、皆さんもぜひ館林市にお越しください。